

テーマ別意見交換会

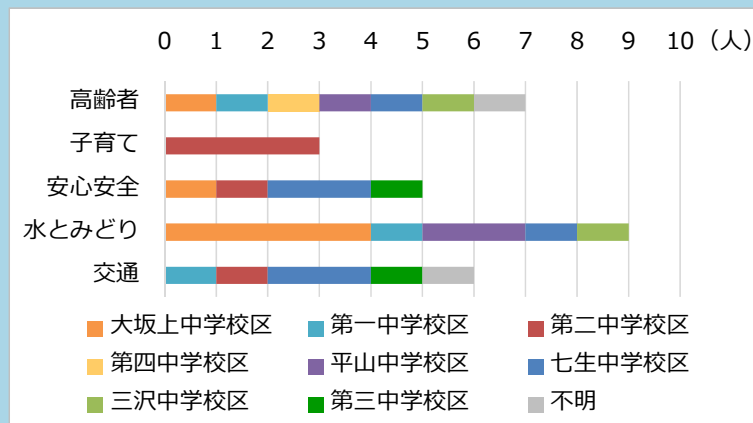
- 開催日時 平成29年9月30日（土）10:00～12:00
- 実施内容
 - 1 はじめに（説明：まちづくりマスタープラン、意見交換会の目的、まちづくりの現況と課題について）
 - 2 テーマ別意見交換
 - 3 各グループの結果発表

●参加人数 30名

（グループ別人数）

テーマ		参加人数	(性別×年代別人数)										
			0 1 2 3 4 5 (人)										
1	高齢者目線の暮らし	7	男性										30代
			女性										40代
2	子育て目線の暮らし	3	男性										50代
			女性										60代
3	安心・安全な暮らし	5	男性										70代
			女性										不明
4	水とみどりの豊かな暮らし	9 (4+5)	男性										
			女性										
5	暮らしを支える交通環境	6	男性										
			女性										

（居住地別人数）



※「水とみどりの豊かな暮らし」グループは2つに分かれて実施



現状

高齢者にとっての日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ

- ◎ **地域住民の結びつきがある**
 - ・地域住民の結びつきはかなりある。人によっては防災・防犯意識が高い（万願荘）
 - ・防災訓練の集まりが良い（西平山）
 - ・ななおBon祭りのまとまりは、商業活動としても素晴らしい！（七生中地区）
- ◎ **自然が多く暮らしやすい**
 - ・八王子より都会で、立川より田舎で、暮らしやすい
 - ・住宅地が静か。のどかで空気がきれい（南平）
 - ・鳥の声が聞こえ自然が多い
- ◎ **家賃が安い**
 - ・立川、八王子より家賃が安い
- ◎ **行政の良さ**
 - ・「税金だけでは持ちません！」と発信している部署が良い
 - ・行政の柔軟性が良い気がする
 - ・福祉が充実している

暮らしにくいところ

- △ **一部の人が地域活動に参加していない**
 - ・自治会活動に参加する人が減少
 - ・元気な人しか活動しない。集めても主体的に関わる人が少ない
 - ・老人が多く自治会のまとまりがイマイチ。子供が少なく活気もイマイチ
- △ **地域活動の場が遠い**
 - ・交流施設が多摩平に集中している
- △ **IT環境が整っていない**
 - ・図書館にwifiがない。IT環境が遅れている
- △ **自然環境は豊かだけれども**
 - ・庭の手入れが大変
 - ・山・川があっても歩いて行けない（南平）
- △ **買い物に不便**
 - ・京王線沿い買い物をする場所がない
 - ・スーパーが少ない（平山地区）
- △ **交通の便が悪い**
 - ・豊田駅南口と北口へのアクセスが不便
 - ・南北移動が大変
 - ・バス本数が少ない。特に丘陵地は不便
- △ **道路が歩きにくい**
 - ・歩道の切込みが多く、車椅子が不便（車道と歩道の段差）
- △ **防災面に不安**
 - ・緊急時の避難所が遠すぎる（南平）
- △ **福祉サービスの改善を**
 - ・引っ越しすると以前のケアマネージャーを選べない。（地域担当制）
- △ **行政内で連携してほしい**

課題

日野市に暮らす価値を高めるために

地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動等へ的高齢者の参加の促進 ・地域活動等への参加に対する意識啓発
活動の場所	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が地域活動等で集まれる施設・場所の確保 ・施設の使いやすさの向上
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が移動しやすい、道路・交通環境の確保（歩行者、車椅子、自転車、バス）
生活利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でも買い物がしやすい生活環境の確保 ・南北移動など交通環境の改善
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの向上

方向性（案）

（住み慣れた場所で暮らし続けられる条件より）

高齢者が歩きやすい歩道の整備

取組（案）

- 安全に通行できる道路環境の整備
- 車椅子も安全に通行できる歩道を整備する
- 自転車レーンを設ける

公共交通の使いやすさを改善する

取組（案）

- バスなどの公共交通を使いやすくする（運転免許を手放す高齢者の移動手段を確保）

高齢者の活動を後押しする環境づくり

取組（案）

- 高齢者の活動を活発にするためのITインフラを整える

- ・これからの時代、世代を問わずIT環境は必須



（リタイア後の、地域との理想的な関わり方より）

元気な高齢者が活動できる居場所づくり、高齢者の活動づくり

取組（案）

- 高齢者が集まり、活動できる場所を身近なところにつくる

- ・「居場所」をつくることに加え、高齢者の「役割」や「仕事」を与えることが重要なポイント！
- ・元気な高齢者、リタイア直後の世代が頑張らなければいけない！



（「生涯健康でいられるまちとは」より）

元気な高齢者が、元気でいられる居場所づくり

取組（案）

- 健康な高齢者が休憩できる場所、集まれる場所を「市役所」に設ける
- 高齢者が休憩し集まる場所は、「市内各地」に設ける（集まる場所が増えれば認知症の予防になり医療費の削減につながる）

元気でいられる仕組みづくり

取組（案）

- 自転車シェアリングで、どこでも自転車借りられ、乗り降りできる仕組み

介護が必要な高齢者の環境改善

取組（案）

- 地域包括センターの介護サービスの改善
- グループホームを増やす

（「いきいきとしたまち、づくりに必要なことより）

市民からアイデアを集め、発信する

取組（案）

- 市は、市民から情報やアイデアを集め、集めた情報を市報等できちんと市民に周知
- 市民のアイデアを受け入れる、柔軟な窓口

現状

子育て世代にとっての日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ

- ◎自然と触れ合って遊べる環境がある
 - ・「NPO法人子どもへのまなざし」が日野の財産！（カワセミハウス、なかだの森、落川などでの活動）
 - ・豊田駅近くに黒川清流公園がある
- ◎顔の見えるご近所関係がある
- ◎日常の買い物が便利（豊田周辺）
 - ・イオンのネットスーパーが便利
 - ・豊田じぞう宅配便も頑張っている
- ◎病院、高齢者施設がある
 - ・障がい者との共生（光の家）
 - ・豊田駅周辺にクリニックが多い（市立病院で働いていた方の開業が増えている）
- ◎ベビーカーも通りやすい歩行環境（多摩平）
- ◎都心への交通アクセスが良い
 - ・豊田駅は始発がある
- ◎子育て支援に役立つ施設や制度がある
 - ・カワセミハウス（子ども、高齢者の居場所になっている）
 - ・ファミリー・サポート・センター

暮らしにくいところ

- △世代間の距離がある
 - ・ワーキングママ（特にフルタイム）は実は孤独
- △防災、防犯面で不安がある
 - ・災害対策は十分？（崖、河川、避難場所）
 - ・防犯面の不安がある（街灯の少ない夜道は危険）
- △公共交通がやや不便
 - ・バス路線が少ないので自家用車が必要
 - ・公共交通は市内縦方向の移動が不便
 - ・多摩平以外の歩行者の通行環境の安全性はどうか？
- △病院は混みがち（特に皮膚科）
- △子育て支援を上手く受けられていない世帯もいる
 - ・フルタイムでない方は保育園に入れるのを諦めがち
 - ・利用できる子育てのサポート制度を調べきれていない人が多い
- △住宅の取得費用は高め
 - ・ローンを払うために夫婦共働きで一生懸命働くしかない
- △市内企業の特性を活かせていない
- △市内在住外国人と地域の交流が十分でない

課題

日野市に暮らす価値を高めるために

生活利便性	・忙しい子育て世代を支える、日常生活の利便性の整った生活環境の確保
地域コミュニティ	・子育ての悩みを抱えるワーキングママの居場所のほか、地域で孤立しやすい属性を支え合える環境づくり
教育環境	・豊かな自然を活かした子育て環境ニーズへの対応 ・市内に立地する企業の先端技術等を活かした教育環境の提供による魅力向上
保育環境	・保育ニーズの増加への多面的な対応
暮らしの安全性	・夜間の防犯性や防災対策の強化

方向性（案）

（子育て環境として必要な条件より）

ワーキングママが地域とつながりを持てる居場所づくり
防災性、防犯性の高い地域づくり

取組(案)

- 子どもを預けつつ息抜きできる場所を増やす
- 子ども家庭支援センターの拡充（現在3箇所→各地域に配置）
- 世代を限定しないサロン、平日の夜に子連れで集まれる居場所をつくる
- 運営のマンパワーを確保する
- 交流施設周辺を中心に、街灯や防犯カメラを増やす



例：子育てカフェモグモグ

（子育て世代の、地域との理想的な関わり方より）

ワーキングママ、市内在住外国人、高齢者、丘陵地域の居住者などの
属性の枠を取り払って子育てができる環境づくり

取組(案)

- 子どもたちがいろんな人がいる環境に触れられるよう、他文化、異世代のダイバーシティを推進

- ・日野市内ではまだ人種ごとのコミュニティが出来上がっていないため、閉じたコミュニティが出来上がる前に、地域のコミュニティに取り込みたい
- ・個別の属性の方を地域にどう引っ張り込んでサポートできるかが鍵



（「子育て世代に選ばれるまちであるために」より）

より利便性の高い、魅力的な居住地づくり

取組(案)

- 駅周辺などの利便性が高い地域の利便性の強化

実家や家族と同居できる住まいの確保

取組(案)

- Uターン者の積極的な受け入れ

子育て環境や支援内容の充実

取組(案)

- 子育てに関するサポート情報の一元化と周知の拡大（インターネットの活用）
- 食育、学習支援などニーズに応じた支援

移動環境の利便性の向上

取組(案)

- 市内は縦方向の交通利便性の確保（JR⇄京王線）
- 駅前や特定の交差点の渋滞緩和

（「いきいきとしたまち、づくりに必要なことより」）

市内企業と連携した教育環境づくり

取組(案)

- 市内企業や大学の技術を活かした先端教育の実現

現状

安心・安全面からみた日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ

◎豊かな自然環境がある

- ・湧水などの水源が豊富にあるため、災害時には水不足になりにくい
- ・緑などの自然が多く残されている

◎暮らしに必要な施設が身近にある（多摩平団地）

- ・多摩平団地には病院や公園がある

- ・低平地は道路の幅が広い

暮らしにくいところ

△丘陵部の水害の危険性

- ・雨天時や災害時の被害が甚大になる可能性がある
- ・湧水や用水があり水を確保できる一方で、水害の際はがけ崩れなどの危険性がある

△避難場所の安全性や移動距離に不安がある

- ・地域によっては避難場所が遠かったり坂の上にあったりするため、避難するのが大変（特に高齢者）
- ・七生中学校は川に隣接しているため、災害時の避難場所としては適していない

△防災対策に不安がある

- ・国や都による防災関係の資金補助を活用する等の工夫がない
- ・災害後に住宅を移転するための用地が少ない

△丘陵部の移動が不便

- ・高齢者が多く住んでいる丘陵部は道幅が狭い
- ・丘陵部は坂が多い上に勾配が急で、冬は雪が積もると大変

△公共交通がやや不便

- ・バス停からマンションまでの距離が遠いため移動が疲れる

△若者と高齢者のつながりが少ない

- ・若者と高齢者の日頃からのつながりが少ない

課題

日野市に暮らす価値を高めるために

交通・移動環境	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵部や木造密集地域で安全に生活を送るための道路環境の向上 ・高齢者が安心安全に移動できるような移動手段の確保 ・歩行者や自転車利用者が安全に移動できるような移動環境の確保
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯防災対策としての日頃からの地域での関係づくり
災害時の避難	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に安全に避難できる施設及び場所の確保
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境を維持しながら、災害時の安全性も確保できる生活環境の創出
事前復興	<ul style="list-style-type: none"> ・災害により被害を受けた住宅の移転先の用地確保 ・災害時を見据えた事前復興計画の検討

方向性（案）

（安心して暮らし続けられる住宅地の条件より）

自然と共生しながら安心安全に暮らせる環境づくり

取組(案)

- 湧水や多摩丘陵などの豊かな緑の保全と合わせた、洪水や斜面災害等の災害対策の充実
- 災害の種類に応じた避難しやすい場所の確保

災害時に主体的に行動できる人材の育成

取組(案)

- 市認定の防災士育成講座の開催

早期に復興できる事前の計画づくり

取組(案)

- 市全域における事前復興計画の策定（被災した住宅の移転先の用地検討等）

（安全な暮らしを支える、地域の理想的なあり方より）

災害時に生きる平常時からの備えやご近所同士の関係づくり

取組(案)

- 地域ごとの日頃からの助け合いの関係づくり
- 若者と高齢者など、多世代が交流できる場づくり
- 平常時からの避難施設や資器材等の利用促進

自助・共助・公助のバランスのとれた体制づくり

取組(案)

- 災害ボランティアやNPOなどによる災害対応ができる体制づくり

- ・行政だけに頼らないという考え方が重要



（空き家空き部屋の活用方法より）

高齢者を始めとした地域住民の居場所としての空き家空き部屋活用

取組(案)

- 簡単な食事やお茶ができるような場所としての活用
- カフェ等の運営者の育成を充実させることによる、市民やNPO団体等の運営への協力促進

（「いきいきとしたまち、づくりに必要なことより）

地域ごとのコミュニティの活力向上

取組(案)

- 新規住民の、既存活動への参加促進
- 災害時に向けた地域のリーダーの確立
- 既存コミュニティとしての自治会の維持、自治会加入率の向上
- 自治会への加入や地域活動へ参加するメリットの創出



例：地域懇談会アクションプラン

現状

水とみどりの環境から見た日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ

- ◎自然やみどりを守り育てるひと・団体がある
 - ・みどりを守り育てていく“こころざし”のある人はいるが、活動がバラバラ
- ◎農やみどりに魅力を感じて転入する人もいる
 - ・新しく移住してきた若い世代がアウトドア派
 - 自然が好きで移住する人もいる
 - ・農家、農地が減っているが、農業をやりたいというニーズもある
 - ・農業をしたい方が転入すると、活性化につながる

暮らしにくいところ

- △自然環境との共存の難しさ
 - ・暮らしやすさを追求すると豊かな自然は維持しにくい
 - ・みどりが減少している局面で、暮らしの視点から「良い点」は出しにくい
- △計画の進捗管理
 - ・マスタープランでは「保全」をうたっているが、みどりや農地が減少しており、具体的な取り組みが進んでいない印象。危機感を持っている
- △用水の維持管理が難しい
 - ・区画整理により用水の形状が変わり（つくり方に工夫がなく）生き物が住まなくなった
 - ・用水があるだけでは、困っている人がいるのも現状。金銭的なもの、環境（におい、ごみを嫌う人もいる）など
 - ・残したいニーズがあれば、無くしたいという人もいる。こうした資源に対する価値の共有が必要

課題

日野市に暮らす価値を高めるために

みどりの保全と価値の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な都市づくりの視点でこれからの水とみどりの環境のあり方と保全の仕方についての検討 ・守り育てたいというニーズを活かした横のつながりの構築
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区ごとにみどりや農に触れ合える場づくり
活力あるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・水とみどりの地域資源を活かした働く場づくり ・農の保全だけではなく持続させるための収益化
計画の進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりや農地の保全に関する施策の実施、管理体制の検証 ・マスタープランの施策の推進体制、関連計画との整合性のチェックを含めた管理体制の確立（施策評価の段階での市民参加）

方向性（案）

（農のある暮らしを、地域で守り育てる）

既存資源を保全しつつ持続可能な形でリメイクする

取組(案)

- 農業公園の整備
 - ・西平山の公園整備予定地等を、農業公園に指定して田んぼを保全
 - ・市民が気軽に田んぼに触れ合える環境の整備
 - ・公園の中にはカフェ、直売所を設け、今ある資源を活用して収益を生み出す
 - ・小学区ごとに整備し、子どもや地域の農業体験の場を創出
- 用水の活用
 - ・田んぼが減少すると用水の機能も活かすことができないため、セットで活用策を検討する
 - ・用水案内ツアーを商品化して、収益化をねらう

（水とみどりのある理想の暮らし）

開発と保全が調和したインフラ整備

取組(案)

- 生き物にやさしい用水と田んぼの保全、開渠化
- 用水や田んぼを残すことができるような区画整理手法の選択
 - ・用水は雨水の排水ルートになるので、保全すれば防災上も役立つ



（水とみどりのある理想の暮らし）

農の拠点の充実

取組(案)

- 都市計画道路等の整備と合わせた車でのアクセス性向上、駐車場の確保等、車社会に対応した設えの充実
- 来場者を増やす工夫、お金を落としてもらえるような付加価値の創造

（水とみどりを守り育てるために）

水とみどりの保全のためのアクションプランづくり

取組(案)

- 保全に関する統一した計画づくり
- 行政と市民が協働で考える会議の場や機会づくり
- 市が主導で保全すべき所のメリハリをつけた計画づくり
- 保全すべき場所の優先順位づけ
 - ・全てのみどりを守っていくことは難しいが、守り方を整理したい



（水とみどりを守り育てるために）

水とみどりの地域資源を活用した価値の再発見の機会づくり

取組(案)

- 用水案内ツアーの実施（資源、価値の再発見）
- 用水守の育成、地域で用水清掃を実施
 - ・今ある資源を活用し、市民・来街者・インバウンド観光にとっての新しい価値を再発見したい



自然環境からみた日野市の暮らしやすさ

現状

方向性（案）

暮らしやすいところ

- ◎自然が身近にある
 - ・身近な公園の緑が増えた
 - ・川や緑地がまとまって残っている
 - ・昔はいなかったホトトギスがいる
- ◎川や田んぼ・用水等の水辺が豊か
 - ・多摩川がある
 - ・用水を守ってきた
 - ・水辺が多く涼しい
 - ・風が吹く
 - ・田んぼのある風景がある
- ◎自然を活かした暮らしがある
 - ・便利を追求しないから良い
 - ・自然を契機として様々なことを知る糸口がある
- ◎その他
 - ・住宅市場で日野は人気あり

暮らしにくいところ

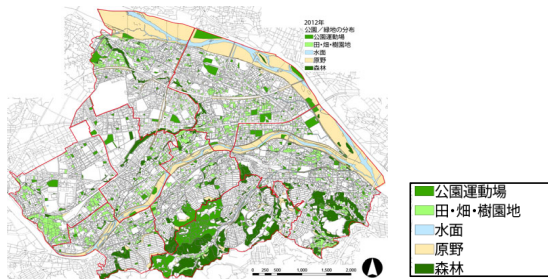
- △自然の質に問題がある
 - ・疑似、人工的自然がある
 - ・見た目は良いが接することはできない自然がある
 - ・意識しないと、自然に接する機会が少ない
 - ・外来生物が増えている
 - ・川や緑地はまとまって残っているが、「くず」が繁茂している
- △自然の減少
 - ・農地が減っている
 - ・田畑が減り、庭のない家が増えている
 - ・丘を崩してまでの開発が行われている
 - ・都市開発より、今のまま残してほしい
- △その他
 - ・空家の改修費を家主は出しにくい。入居者は古物件に不安がある

日野市に暮らす価値を高めるために

課題

地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・川、農と水路、丘陵の緑 →市民が自然や農に親しむための環境保全。人工的ではない自然。
人的要因、コミュニティの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・農家と市民の交流機会の拡大 →周辺住民の意識改革。地域の中で、農業のあり方を話し合う。 ・自治会が不活発 →若者や女性が参加しやすくなるよう、規約を変えるべき。
活力のあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を活かした交流の拡大 →働く場、交流の場として、農地や自然を活かす暮らしの創出。
将来をみたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画による公園・里山・水辺の維持管理 ・農の公共財化 →農家まかせではなく公的支援も含む農がある暮らし。FENの農園

■農地や樹林は減少傾向



〈出典〉
土地利用現況調査
(2012)

（水と緑の保全活動）

市民参画による緑地・用水の保全

- 取組(案)
- 用水の歴史の紹介
(自然のバランスや矛盾などを通して、地域を知る)
 - 雑木林ボランティア
 - 公園清掃ボランティア
 - 里の里づくり、井戸の維持、管理

（農がある暮らしの地域での継承）

身近な農業の展開

- 取組(案)
- ひょうたん田んぼの造成
 - せせらぎ農園の運営、収穫物による「炊き出し食事会」の実施
 - 学校米を地域の田んぼ、地域の人でつくる

農地の公共財化

- 取組(案)
- コモンズ農園
 - クラインガルテン
 - 生産緑地の新制度の活用
 - 国の制度創設による、農地の公共財化
 - 市役所内の分野間の連携強化（生まれている市民活動との協働）

- ・農家まかせではなく、地域住民が農地を支える仕組みをつくりたい
- ・田舎へ出かけなくても、日野の農地を活用して実現できるふれあいがあらず



（その他）

日野の遺産発見・発掘プロジェクト

- 取組(案)
- 旧蚕糸試験場日野桑園遺構群の価値を生かした活用
 - 日野市の産業・自然遺産として登録・指定する
 - 単なる古典文化財ではなく、生活文化財として交流の契機にする
 - 失われた蚕室群を発掘し、残した並木との関係を再発見
 - 旧蚕糸試験場を楽しむ
 - 庁舎基礎の内側は自然遺産
 - 日野宿との連携

※「文化財の活用」を「水とみどり」「子育て」等と並ぶ1つのテーマとして扱ってほしい



現状

交通環境からみた日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ

- ◎まちづくりと合わせて交通環境が改善されている
- ・高幡駅前→市役所のバスの便数が増えて便利になった
 - ・他都市に比べてバス便が多い
 - ・万願寺周辺の交通は便利

暮らしにくいところ

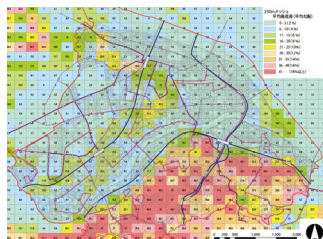
- △便数が少ない
 - ・高幡駅前→豊田のバス便数が少ない
 - ・ミニバスの便数が少ない
 - ・ミニバスの運行本数が少ない（高幡→三沢方面）
 - ・駅までの運行本数が少ない
- △乗り継ぎが不便
 - ・バスの乗り継ぎの時間を考慮してほしい
 - ・乗り継ぎに於ける停留所の位置と時間が合わない
- △ミニバスのルート
 - ・高幡台団地は高齢者が多く買い物が大変だが、バス停まで遠い。団地の中までバスが入って来ない
 - ・ミニバスはしなだけでなく市外への運行も（多摩川を渡った先にあるバリュースーパーへ行くニーズが多い）
 - ・橋の数が足りない（高幡→豊田のルート）
- △バスの乗りやすさ
 - ・ミニバスは揺れが大きい
 - ・ミニバスの車椅子対応が良くない時がある。細い道路でスロープが下ろせなくて乗降できない場合がある

課題

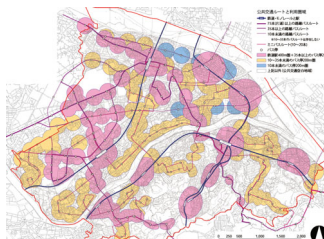
日野市に暮らす価値を高めるために、交通環境の視点から

生活利便性	・南部は勾配のある地形に高齢者が多く住む住宅地、空き家も多い →公共交通を含めたきめ細かい対策が必要なエリア
地域資源	・川、農と水路、丘陵の緑と(富士山)の眺め →日野に来る人を増やし、市民が楽しむための移動環境の視点
活力のあるまち	・工場の移転、リタイアした高齢者の増加 →働く場を創り、それぞれの世代が役割を持つ地域社会へ
将来をみたまちづくり	・運転できなくなった高齢者の円滑な移動環境の確保 →歩ける生活圏づくりの視点のまちづくり

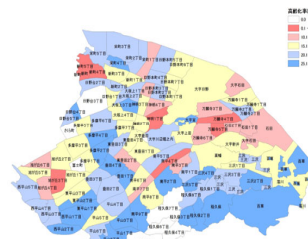
■南部に勾配のある住宅地、北部は崖線で台地と低地



■3拠点を結ぶルート外に交通不便な地区がある



■南部に高齢化の高い区域、区画整理地区は若い人



方向性(案)

(市民が守り・育てるミニバス)

ミニバスの運行本数やルートを、市民、市、運行事業者で話し合う場をつくる



現状

- ・ミニバスは他都市と比べ充実しているが、個々のニーズでは使いにくい場合もある
- ・市外へ行くニーズもあるが、ルートが市内中心なのは見直したい

取組(案)

- ミニバスの利用者データを取って、利用状況やニーズに応じて見直しができる体制が必要
- 「ミニバスサポーター制度(仮)」を作って、ルートや本数を協議しながら決める
- 収益向上にも市民のアイデアを活かす(観光客へ「新撰組デザイン」のバス発行など)

(市民共助の公共交通の補完)

公共交通でカバーできない小さいニーズは市民で助け合う



現状

- ・バス停まで歩いて30分かかる場所もある。バスを運行するだけの利用者はないが、日々の買い物で荷物を持って歩くのはたいへん

取組(案)

- ワゴンタクシーの機能を見直し、住宅から駅までのルートを中心とする、デマンド方式にする
- NPOや地域でお年寄りなどを送迎するサービスを行う

(すべての人が安心・快適に移動できる環境づくり)

公共交通の運行にはきめ細かい配慮が必要



現状

- ・ミニバスで狭い道路のバス停では車椅子で乗り降りできないところがある

取組(案)

- 障害者や高齢者が普通に使えるバス停留所周りやバスの整備
- 運転士や同乗する市民の適切なサポートを公共交通利用のマナーに

(自家用車を運転できなくなった時への準備)

将来も安心して便利に暮らせる準備をしておく
～歩ける範囲で生活圏が構成される街づくりが必要～

現状

- ・今は運転できるが、運転できなくなった時が不安だ
- ・シルバーバスは現状で役立っている
- ・多摩平はクルマのない高齢者の暮らしにとっても理想的だ

取組(案)

- 買い物や病院など、必要な生活機能が歩ける範囲にあることが理想
- 用水や緑の資源を活かして、観光で日野に来る人を増やす。市外の人にもバスを使ってもらうことも必要。
- 丘陵部の空き家をこれ以上増やさず、若い人に住んでもらうなど、コミュニティで近隣の困りごとに対応していく